

平成 26 年
1 月 28 日

病害虫発生予報 2 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬を散布したあとは、防除器具の洗浄を忘れずに
～薬液タンク・ホース等に残った農薬が思わぬ残留基準超過をまねきます～

< 目 次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

【その他の病害虫】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ

II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

本文に記載されている薬剤は平成 26 年 1 月 15 日現在のものです。

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病株率は平年よりやや高く（本年値 5.3%，平年値 4.0%）、発生地点率は平年並（本年値 33%，平年値 34%）である。また、発病果率は平年よりやや高い（本年値 0.7%，平年値 0.3%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 発病の予防には、硫黄くん煙剤処理が省力的で有効である。
- ⑤ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実が汚れる場合があるので、十分注意する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、被害葉率は平年より高く（本年値 34.6%，平年値 9.7%）、発生地点率は平年よりやや高い（本年値 78%，平年値 49%）。ただし、発生程度は圃場による差が大きい。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。なお、薬剤は古い下葉を除去してから散布すると、薬液が葉裏にもかかりやすくなり効果的である。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在，寄生花率（本年値 85.0%，平年値 16.7%），発生地点率（本年値 100%，平年値 62%）ともに平年より高い。
- ② 1月下旬現在，被害果率は平年よりやや高い（本年値 0.3%，平年値 0.2%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。また，各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は，薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用している場合は，薬剤の影響に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	予報内容	発生概況及び注意すべき事項
ピーマン 促成	うどんこ病	発生量：平年並～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
トマト 促成	灰色かび病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。
促成 キヌウリ	べと病	発生量：平年並～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	褐斑病		
	灰色かび病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月25日から2月24日)

気象庁(1月24日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。期間の前半は、気温の変動が大きい見込みです。

<1週目の予報> 1月25日(土曜日)から1月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 2月1日(土曜日)から2月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 2月8日(土曜日)から2月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。